

Information

“キャリアアップ”と“つながる”ための情報です
気になる学会・研究会、セミナーなどに出かけよう！

※掲載している情報は2022年11月25日時点のものです。最新の情報は主催元をご確認ください。

2023年度聖路加国際大学認定看護師教育課程研修生2次募集

開講分野 訪問看護、認知症看護
出願期間 1月16日(月)～27日(金)消印有効
試験日 3月2日(木)
※筆記試験・面接試験
検定料 5万円(税込)
教育期間 6月1日～2024年2月29日(9か月間)
授業形態 週末開講(金・土)
※共通科目および実習は一定時期に集中実施
募集人員 訪問看護10人程度(定員30人)、認知症看護15人程度(定員35人)
募集要項・出願書類 左記URLよりダウンロード
〒104-0044
東京都中央区明石町10-1
☎03-5550-2247(直通)
✉ninte@scn.ac.jp
http://edu-sk.luke.ac.jp/ninte/

第40回

日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会

日時 2月24日(金)～25日(土)
会場 京王プラザホテル(東京都新宿区)

テーマ 未来のための今～次の10年のために今を見つめる

プログラム 教育セミナー「未来に向けた高齢者へのストーマ支援を考える」・「外科医の立場から「高齢者のストーマ造設を含む手術の実際と配慮すべきポイント」高橋孝夫(岐阜大学医学部附属病院消化器外科)／看護師の立場から

①「周術期における高齢者のストーマケアのポイント」工藤礼子(国立がん研究センター中央病院看護部)、②「ストーマを造設した高齢者への退院調整の実際と支援のポイント」宮本乃ぞみ(東京通信病院看護部)、③「在宅訪問看護師から見た高齢者へのストーマ支援の現状と急性期病院に望むこと」山口みどり(なごみ訪問看護ステーション)／質疑応答・ディスカッション／ほか

参加費 「当日登録」会員1万円、非会員1万1000円、学生は無料

※学生(参加費：無料、抄録集別)は学部学生に限る。認定看護師は含めない。会場受付で証明書を確定

認

開 運営事務局

株式会社インターネットグループ
〒105-0001

東京都港区虎ノ門2-2-5
共同通信会館4F

☎03-5549-6909
FAX 03-5549-3201

✉scs40@intergroup.co.jp
https://square.umin.ac.jp/jsr40/index.html

第37回日本がん看護学会

日時 2月25日(土)～26日(日)

開催形式 現地会場 オンライン配信

会場 パシフィコ横浜ノース(神奈川県横浜市中区)

テーマ がん患者の持つ力を見出し支援する看護

プログラム 会長講演「がん患者の持つ力を見出し支援する看護」清水多喜子(がん研究会有明病院看護部長・副院長)／特別講演1「E. Nohringよりひも解く病気の

見方と患者の生きる力」和住淑子(千葉大学大学院看護学研究科教授)／2「喪失からの回復・成長——子どもの教育の視点から」副島賢和(昭和大学大学院保健医療学研究科准教授)／教育講演1「事例研究」への現象学的アプローチ」榊原哲也(東京女子大学

現代教養学部人文学科哲学専攻教授)／2「人生100年時代 生き抜くー生き抜けるー」健康長寿だけではなく幸福長寿実現のために「飯島勝矢(東京大学高齢社会総合研究機構構長、未来ビジョン研究センター教授)／3「急性放射線皮膚炎へのケアに対する知識をUp-to-date」日浅友裕(中京学院大学看護学部准教授)／4「がん医療に必要なヘルスリテラシー」中山和弘(聖路加国際大学大学院看護学研究科看護情報学分野教授)／5「がん看護に活かすヘルスアセスメント」臨床推論」山花令子(国立がん研究センター東病院)／6「がん看護実践者のストレスマネジメント」患者の持つ力を支援するために「鈴木梢(東京都立駒込病院緩和ケア科医長)／シンポジウム1「未来を拓くがん看護の本質——これまでの歩み、そして未来——」石垣靖子(北海道医療大学名誉教授、日本がん看護学会名誉会員)、秋山正子(認定NPO法人マギーズ東京マギーズセンターCSS共同代表理事・センター長)、小松淳子(日本赤十字九州国際看護大学学長)／2「第4期がん対策推進基本計画から考えるがん看護の未来」木澤義之(筑波大学医学医療系教授)、田村恵子(京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教

授、大西啓之(特定非営利活動法人キユアサルコーマ理事長)、溝上悠介(厚生労働省健康局がん・疾病対策課主査)／3「治療後の暮らし」——頭頸部がん治療の体験から」岩井美世子(名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻高度実践看護開発学講座博士後期課程)、跡田涼子(がん体験者)、千葉治郎(がん体験者)、砂川未夏(キャンサー・キャリア代表)／パネルディスカッション「再発・進行期患者のエンパワメントを考える」佐々木治一郎(北里大学医学部附属新世紀医療開発センター)横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学教授、飯田郁実(国立がん研究センター中央病院副看護師長)、福地智巴(静岡県立静岡がんセンター疾病管理センター)よろず相談、長谷川一男(NPO法人肺がん患者の会ワンステップ理事長)／2「地域における高齢がん患者の暮らしを支える——多様な場での安心を支える取り組み」廣橋猛(永寿総合病院がん診療支援・緩和ケアセンターセンター長)、梅田恵(ファミリー・ホスピス株式会社品質管理室執行役員、副社長)、佐藤直子(東京ひかりナースステーションオクリティマネジメント部長)、高橋利果(未来かなえ訪問看護ステーション「すみちゃん」所長)／

3「がん患者の持つ力に沿った意思決定支援のアウトカム」会田薫子(東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上席講座特任教授)、大坂和可子(慶應義塾大学看護医療学部准教授、浅海くるみ(東京工科大学医療保健学部看護学科講師、江口恵子(相良病院顧問)／編集委員会主催研修会「採択される質的研究論文を書くために押さえておきたいポイント」秋元典子(甲南女子大学学長)／教育研究活動委員会主催セミナー「がん看護の実践から研究まで使える患者報告アウトカム」宮下光令(東北大学大学院医学系研究科教授)／ガイドライン委員会主催シンポジウム「がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する予防、発見、管理のUpdate——日本がん看護学会、日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍学会合同ガイドライン2023年版より」菅野かおり(日本がん看護学会、公益社団法人日本看護協会神戸研修センター)、松本光史(日本臨床腫瘍学会、兵庫県立がんセンター)、龍島靖明(日本臨床腫瘍学会、独立行政法人国立病院機構埼玉病院)／がん看護技術開発委員会企画シンポジウム「がん看護に関わるCNS・CNの活躍の場を拓ける取り組み——『がん患者指導管理料・イ・ロ』の更なる発展に向けて」吉田詩織(東北

大学大学院医学系研究科がん看護学分野)、堀口沙希(国立がん研究センター中央病院)、細矢美紀(がん看護技術開発委員会委員、国立がん研究センター中央病院・看護師長)／災害対策委員会主催研修会「コロナ禍において創出された外来がん薬物療法を受ける患者・家族へのケア」中山祐紀子(医療法人社団杏順会越川病院看護部)／災害対策委員会委員、平松玉江(国立がん研究センター東病院、感染管理認定看護師)、浅野耕太(京都第二赤十字病院)／将来構想推進委員会社会連携活動企画「学会と当事者団体の連携のあり方を考える——第一弾・AYA世代ががん患者の支援者とともに」岸田徹(NPO法人がんノート代表、多和田奈津子(若年がん患者会ローズマリー、一般社団法人グルーブ・ネクス・ジャパン)、津村明美(認定NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト、JSCN小児・AYA世代がん看護S-I-G-Mメンバー)

index.html
申込期限「二次参加登録」1月16日(月)～2月26日(日)
問 運営事務局
あゆみコーポレーション内
〒550-0000
大阪市西区十住堀1-4-8
日栄ビル703A
☎ 06-6131-6605
FAX 06-6441-2055
✉ scn37@ayon.jp
<http://scn37.unin.jp/>

第17回東京都病院学会

日時 2月26日(日) 9:30～17:00
会場 アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)

テーマ コロナ後だから必要な医療の質管理——標準化・効率化で行う業務改善
プログラム 基調講演「同質性の社会における異質」河北博文(東京都病院協会名誉会長・河北総合病院理事長)／会長講演「東京都病院協会1年間の活動と今後の課題」猪口正孝(東京都病院協会会長・平成立石病院理事長)／学会長講演「当法人の歩みと業務改善の経緯」進藤晃(東京都病院協会常任理事・大久野病院理事長)／標準化・効率化で行う業務改善の実践(学会会長企画)「医療の質マネジメントの基本とOMS-H研究

会の取り組み」棟近雅彦(早稲田大学創造理工学部経営システム工学科教授)／PCAPSの実装——患者状態適応型チーム医療の実現」水流聡子(東京大学総括プロジェクト機構サービスエクセレンス総括寄附講座特任教授)／「病院における質管理の実践」福村文雄(株式会社麻生飯塚病院特任副院長)

✉ scn37@ayon.jp
<http://scn37.unin.jp/>

申込方法 左記URLの申込フォームより

参加費「事前登録」5000円(ただし院長・理事長は1万5000円)、「当日受付」6000円(ただし、院長・理事長は1万6000円)、学生1000円(事前登録・当日受付共通)

申込期限 1月20日(金)

問 一般社団法人東京都病院協会
〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-5
東京都医師会館404号
☎ 03-5217-0896

✉ hta17@tao.jp(学会専用)
<https://hta.or.jp/gakkai/info/17th.html>

第15回 文化看護学会学術集会

日時 3月19日(日)

会場 千葉県立保健医療大学葛張キャンパス(千葉県千葉市美浜区)

テーマ人と人をつなぐケアの本質

プログラム 会長講演「人と人をつなぐケアの本質」佐藤紀子（千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科教授）／基調講演「ケアするまちづくり」山崎亮（Studio-代表、関西学院大学教授）／シンポジウム「多様な場の『つなぐ』実践にみる看護の可能性」千葉晃一（コレカラ・サポート代表理事）、山木則男（うたせ認知症を考える会代表世話人）、福田裕子（まちなのナースステーション八千代総括所長）／一般演題発表（口演）および交流集会

参加費 「事前登録」会員6000円、非会員7000円（当日参加）会員7000円、非会員8000円、学生1000円

※「学生」とは大学等の基礎教育課程に在学中の者。当日受付で学生証を提示

申込方法 左記URLの申込フォームより

申込期限 2月10日（金）

問合せ先 学術集會事務局

千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科内

〒261-0014

千葉市美浜区若葉2-10-1

✉ scs15@opuns.ac.jp

<https://cultural-nurs.jp/meeting/20230319/index.html>

2023年度木村看護教育振興財団助成募集

◎看護研究助成

助成対象 看護の質的充実・向上が期待できる先駆的研究で、療養環境に関わる研究など、臨床の役に立つ未発表のものに限る。共同研究、感染症をテーマとする研究を歓迎

助成する研究の分野 基礎看護、成人看護、老年看護、小児看護、母性看護、精神看護、地域看護、在宅看護、看護管理、看護教育、その他

応募資格・要件

①申込者（共同研究の場合は研究代表者）は、日本在住の看護職者で、臨床・地域看護に従事している個人

②大学教員、大学院生は対象外。ただし、大学教員や大学院生でも臨床・地域看護に従事している看護職者は対象となる

③助成決定後、ただちに所属機関等の倫理審査委員会等への承認申請を行うこと。または、すでに承認申請中であること

④関係所属長の推薦があること
⑤富利を目的とする研究ではないこと

研究期間 4月1日～2025年3月31日

助成金額 1件につき100万円

を限度。選考委員会の査定を経て決定された助成金額を、助成年度の6月中旬に全額一括支給

助成金の使途および報告

①助成金の使途には、研究協力者経費、旅費交通費、調査費、資料・印刷費、会議費、通信・運搬費、機器・備品費、消耗品費等を含む。ただし、給与形式の人件費は対象から除外

②助成金の使途は、助成対象研究に必要な直接経費に限る。間接経費は含まない

③助成金の使途については、研究成果の提出時に本財団所定の様式に領収書を添えて詳細な報告をする

応募方法 財団Webサイトにある「看護研究助成申請書申込フォーム」に必要事項を記入し、申請完了ページから要綱・応募用紙をダウンロード。必要事項を記入の上、次の①～②の書類とともに、下記申込書送付先へ送付

①研究計画書

②希望助成額の積算内訳

申込締切日 1月19日（木）必着

選考結果 3月下旬に文書で通知。助成決定者は後日、必要書類を提出

研究成果の報告

①原則として、2025年3月31日までに研究論文を学会誌等に投稿し、それが掲載されることによ

り成果の発表とする。本財団には当該論文（別刷り）および抄録を提出。抄録は、本財団のホームページに掲載する予定

②上記以外の場合は、上記期間内に本財団に看護研究報告書を提出。当該報告書は、『年次報告書』または本財団のホームページに掲載。当該報告書の内容は、国の内外を問わず、他の出版物（デジタル媒体を含む）にすでに発表あるいは投稿されていないものに限る

③論文投稿、看護研究報告書の発表方法を問わず、本財団主催の報告会（ウェブ形式を含む）で研究成果の概要を報告

④研究成果を関係学会等に発表する際には、公益財団法人木村看護教育振興財団の助成を受けた研究である旨を明記

問合せ先 公益財団法人木村看護教育振興財団事務局

〒113-0033

東京都文京区本郷5-25-14-8階

☎ 03-58000-2700

FAX 03-58000-0022

✉ kmura-info@nurseed.jp

<http://www.nurseed.jp/>